

チャレンジ!

緑のカーテン

～流山市役所の職員が取り組んだ事例から～



流山市役所では、平成18年度から、市役所第3庁舎南側にプランターとネットを設置し、緑のカーテンづくりに取り組み始めました。

緑のカーテンの作り方に関してはホームページ等で様々に紹介されていますが、ここでは市役所の職員自らが取り組んだゴーヤによる緑のカーテン作りを紹介します。

植物でできた自然のカーテンは、葉に含んでいる水分の蒸散作用により夏場の室内の温度上昇を抑え、植物の緑は目にやさしく心に安らぎを与えてくれます。

さあ、チャレンジ！緑のカーテン。

■土づくり【4月下旬】

ゴーヤは連作に強くないため、プランター内の土を全部入れ替えたいのですが、相当の費用がかかります。そこで、既存の土に発酵済み牛ふん、油粕、化成肥料、苦土石灰を加え、十分に混ぜ合わせ、土の活性化を図りました。

■苗の植え付け【5月上旬から中旬】

大きいプランターのため、1つのプランターに3株を植え付けました。苗の間隔は30cm以上離しています。



< 植え付け完了 >



< 植え付けから約3週間 >

■水やり【随時】

水やりは、朝の時間帯に土の表面が乾燥したら適度に与えました。苗がまだ小さいうちは、水の与えすぎによる根腐れをおこさないよう気をつけました。

夏の暑い時期には毎朝水やりをし、加えて、土の乾燥を少しでも防ぐため、腐葉土やチップなどもまいています。

■親づるの摘心・追肥

ココ重要!

本葉が 6~8 枚になったら、親づるの先端を 2~3cm 位ハサミで切り取りました。これは親づるから伸びていく子づるの成長、ひいては孫づるの成長を促すためです。（親づるには花が少ないことからゴーヤの実がほとんどなりません。）

植え付け後 1 か月を目安に、化成肥料を株元から離してあげました。その後は 2 週間に 1 度の間隔で化成肥料をまきました。



〈親づるの先端をカット〉



〈化成肥料で追肥〉



〈植え付け後 40 日〉



〈黄色のきれいな雌花〉

■生育

雨が降っている日でも傘をさしながら生育状況を確認し、ひたすら愛情をもって雑草取り、水やり、追肥をしました。

また、プランターの土が見えなくなる程、ゴーヤの植え込み部分が葉で覆われたことから、空気の入れ込みを良くし病害虫のたまり場にならないよう葉とつるを剪定しました。この剪定により水やりがやりやすくなりました。

なお、アブラ虫などの害虫やウドンコ病などの病気が発生することはありませんでした。



< 植え付け後約 2 カ月 >



< 事務室内のカーテンの様子 >

植え付け後2カ月も経つと窓一面がゴーヤの葉で覆われ、つるが屋上に到達しました。まだまだ横につるを伸ばしたいため、屋上に到達したつるは剪定しました。

■ 収穫

たくさんのゴーヤが収穫できたため、福祉部門の職員と協力して福祉施設の給食用食材として活用してもらいました。



「あばしゴーヤ」と「よくなるゴーヤ」の収穫

■ 家庭でできる収穫したゴーヤの利用法

ゴーヤはビタミンCが特に豊富で、加熱してもその成分が壊されにくいとてもたくましいウリ科の野菜です。

豚肉と木綿豆腐を利用したゴーヤチャンプルは代表的な料理ですが、その他にも簡単に調理できますので、是非、ご家庭で作ってみてください。（詳しいレシピは省略させていただきます。）

① ゴーヤカレー

普通のカレー作りに薄くスライスしたゴーヤを混ぜるだけで、苦いゴーヤが風味あるゴーヤに生まれ変わります。

② ゴーヤサラダ

薄くスライスしたゴーヤを塩もみし、1分程茹でてから冷やしてサラダに混ぜれば、それ程苦くなく食べられます。

③ ゴーヤ茶

薄くスライスしたゴーヤを新聞紙の上に並べ、1日天日干しをし、フライパンでそのまま炒ります。ほうじ茶のようないい香りの自家製お茶が作れます。



左：乾燥前 右：乾燥後

1日乾燥させると水分が抜け、こんなに小さくなりました！

■後片付け

9月下旬に入り気温が低下してきたことから、徐々に葉が黄色に変色してきました。夏の間は、緑のカーテンとして活躍してくれたゴーヤですが、10月に入ると一気に枯れ始めましたので、感謝の気持ちを心に込め、10月下旬につるを撤去しました。



< 8月下旬の状況 >



< 10月中旬の状況 >



お問い合わせ
流山市役所 環境政策課
TEL 04-7150-6083
E-mail kankyouhozen@city.nagareyama.chiba.jp